

GI初制覇への挑戦

覇道は我どまり



—下—

地元ならS大丈夫

井上 忠政 (25)

—大阪—

したレースもあった。勝負駆けで何とか1着が取れて乗れた感じ」と、レース内容には納得していない。

今期(5月以降)は3優出で1Vとやや物足りないが「今期はF休みがあったし、記念が増えて勝率が取れていない。でも、休み明けの住之江で優勝ができたから」と、6月下旬の一般戦で地元初V(通算3V)。

「ホツとしました。これまで2回の優勝はまぐれで勝ったと思っていたけど、初めて予選トップから(準優、優勝戦と)2回逃げて、ちゃんと優勝できた感じ」

今節で住之江は今年7節目。「これだけ走ったらアドバンテージはあると信じています。地元ならSも大丈夫ですし、あとはいいエンジンを引き一走一走やるだけ」。当然、住之江でのペラ調整は、他の場よりも分かっている。走り慣れた水面で持ち味のスピードを発揮する。

また、井上の初挑戦が始まる。昨年9月、びわこ・ヤングダービーでGI初出走。準優には乗れなかったが、2日目にGI初勝利を決めて節間4勝とスケールの大きな走りで活躍した。今年3月の住之江・太閤賞で地元GI初登場。3日目までに2勝を挙げて予選突破は当確ムードも、4日目に選手責任の転覆(不良航法もあって減点15)。無念の予選落ちとなったが、存在感の確かに見せつけた。

そして、今節は自身初の高松宮記念。「またGIを走れるとは考えてもなかった。特にプレッシャーはなはいですが、住之江は一般戦でも気持ちを入れて走っているからGIも同じです」

すでに5月平和島周年でGI初準備を決め、3月太閤賞の雪辱を果たしているが「(平和島は)足は良かったけど、予選で取りこぼ



初の高松宮記念に臨む井上。誰よりも走り慣れた住之江水面で激走する

—おわり—